

報 告 書 等

生活科学部

1 室内空气中揮発性有機化合物（VOC）・準揮発性有機化合物（SVOC）の標準試験法の評価

田原麻衣子¹⁾，千葉真弘，田中礼子²⁾，村木沙織²⁾，吉富太一³⁾，西以和貴³⁾，大貫 文⁴⁾，角田徳子⁴⁾，大嶋直浩¹⁾

国立医薬品食品衛生研究所編，厚生労働行政推進調査事業費補助金（化学物質リスク研究事業）「室内空気汚染化学物質の標準試験法の開発・規格化および国際規制状況に関する研究」令和5年度 分担研究報告書，国立医薬品食品衛生研究所，川崎，令和6年3月

厚生労働省が示している室内空気に関する公定試験法のうち、アルデヒドの測定についてオゾンスクラバーの有無による測定結果への影響等について検討した。

¹⁾国立医薬品食品衛生研究所，²⁾横浜市衛生研究所，³⁾神奈川県衛生研究所，⁴⁾東京都健康安全研究センター

2 未規制有機リン系防炎加工剤試験法等に関する研究

千葉真弘，柿本洋一郎

国立医薬品食品衛生研究所編，厚生労働行政推進調査事業費補助金（化学物質リスク研究事業）「家庭用品中有害物質の試験法及び規制基準設定に関する研究」令和5年度 分担研究報告書，国立医薬品食品衛生研究所，川崎，令和6年5月

海外では規制されているが国内では未規制の有機リン系防炎加工剤についての実態調査を実施した。その結果1検体から今回対象とした防炎加工剤が検出され、その使用が示唆された。

食品科学部

3 食品に残留する農薬等の成分である物質の試験法開発・検証業務

岡部 亮，中島千歳，羽賀美優，青柳光敏

北海道立衛生研究所食品科学部食品安全グループ編，食品に残留する農薬等の成分である物質の試験法開発事業報告書（ジノテフラン試験法－畜産物－），北海道立衛生研究所，札幌，令和7年3月

ポジティブリスト制度において現在までに公定試験法が確立されていない農薬等のうち「ジノテフラン」について試験溶液の調製法及び機器分析の諸条件等を検討し、畜産物へ適用する個別試験法を開発した。

感染症疫学部

4 食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究

岩渕香織¹⁾，森本 洋，小川恵子，竹脇優太郎，佐藤 凜，石黒真琴²⁾，高橋洋平³⁾，岩間貴士³⁾，今野貴之⁴⁾，瀬戸順次⁵⁾，的場洋平⁵⁾，矢崎知子⁶⁾，山谷聡子⁶⁾，村上未歩⁷⁾，柳沼 幸⁸⁾，片桐彩香⁸⁾，川瀬雅雄⁹⁾，坂井裕生¹⁰⁾

泉谷秀昌編，厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）「食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究」令和5年度 総括・研究分担研究報告書及び令和3年～令和5年度 総合研究報告書，国立感染症研究所，東京，令和6年4月，pp.27-43

腸管出血性大腸菌（EHEC）の菌株を比較する分子疫学的手法として地衛研で実施されている PFGE、IS-PS、MLVA の3法について、精度管理の実施と研修会を開催した。併せて他の地衛研での検査の実情を把握するためアンケート調査を行った。これまでの精度管理によりブロック内で MLVA 法の習得が進んでいると考えられた。研修会では EHEC の NGS について新たな知見が得られ、他地衛研での食中毒等事例報告は業務の参考となり有意義な情報交換となった。

¹⁾岩手県環境保健研究センター，²⁾札幌市保健福祉局衛生研究所，³⁾青森県環境保健研究センター，⁴⁾秋田県健康環境センター，⁵⁾山形県衛生研究所，⁶⁾宮城県保健環境センター，⁷⁾仙台市衛生研究所，⁸⁾福島県衛生研究所，⁹⁾新潟県保健環境科学研究所，¹⁰⁾新潟市衛生環境研究所

感染症部

5 全国地研ネットワークに基づく食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査

四宮博人¹⁾、小川恵子、佐藤 凜、岩間貴士²⁾、高橋洋平²⁾、矢崎知子³⁾、山谷聡子³⁾、木村葉子³⁾、黒川奈都子⁴⁾、小川麻由美⁴⁾、高橋裕子⁴⁾、堀越絢乃⁴⁾、倉園貴至⁵⁾、小西典子⁶⁾、鈴木美雪⁷⁾、古川一郎⁷⁾、後藤千恵子⁸⁾、小泉充正⁸⁾、柳本恵太⁹⁾、木全恵子¹⁰⁾、磯部順子¹⁰⁾、池田佳歩¹⁰⁾、前西絵美¹⁰⁾、石森治樹¹¹⁾、永田暁洋¹¹⁾、坂井伸成¹¹⁾、横山孝治¹¹⁾、田島志保¹¹⁾、柴田伸一郎¹²⁾、梅田俊太郎¹²⁾、市川 隆¹²⁾、西島駿弥¹³⁾、若林友騎¹³⁾、坂田淳子¹³⁾、梅川奈央¹³⁾、河原隆二¹³⁾、岩崎直昭¹⁴⁾、中野克則¹⁴⁾、齊藤悦子¹⁵⁾、荻田堅一¹⁵⁾、佐伯美由紀¹⁶⁾、築山結衣¹⁶⁾、川上優太¹⁷⁾、林 宏樹¹⁷⁾、野村亮二¹⁷⁾、河合央博¹⁸⁾、梶原知博¹⁸⁾、池田和美¹⁸⁾、山本美和子¹⁹⁾、末永朱美¹⁹⁾、池田伸代¹⁹⁾、千神彩香¹⁹⁾、大原有希絵¹⁹⁾、福田千恵美²⁰⁾、関 和美²⁰⁾、岩下陽子²⁰⁾、目黒響子²⁰⁾、濱田建一郎²¹⁾、中村悦子²¹⁾、上野可南子²¹⁾、博多屋ちなみ²¹⁾、浅野由紀子¹⁾、平井真太郎¹⁾、矢儀田優佳¹⁾、大塚有加¹⁾

菅井基行編，厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「ワンヘルスに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランス体制強化のための研究」令和5年度 総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，令和6年5月，pp.10-32

ヒト及び食品由来サルモネラ、大腸菌、カンピロバクターについて薬剤耐性状況を調査した。サルモネラについては、ヒト由来株の43.8%と食品由来株の89.2%が耐性を示した。大腸菌については、ヒト由来株の37.8%と食品由来株の57.9%が耐性を示し、病原因子陰性株は下痢原性大腸菌よりも高度の多剤耐性傾向を示した。*Campylobacter jejuni*、*C. coli* はヒト由来株と食品由来株の耐性に類似性があつた。2015-22年分離のサルモネラと大腸菌を対象に、基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ（ESBL）及びAmpC β -ラクタマーゼ（AmpC）遺伝子を検査した。その結果、サルモネラではヒト由来株と食品由来株の両方から検出されたESBL及びAmpC遺伝子が認められた。大腸菌ではAmp遺伝子保有株が少なく、主にESBL遺伝子が検出された。さらに、大腸菌の種類別に保有するESBL遺伝子が異なつた。また、2017-22年に分離されたサルモネラ1,265株（ヒト由来683株、食品由来582株）が、ゲノム解析のために国立感染症研究所へ送付された。

¹⁾愛媛県立衛生環境研究所，²⁾青森県環境保健センター，³⁾宮城県保健環境センター，⁴⁾群馬県衛生環境研究所，⁵⁾埼玉県衛生研究所，⁶⁾東京都健康安全研究センター，⁷⁾神奈川県衛生研究所，⁸⁾横浜市衛生研究所，⁹⁾山梨県衛生環境研究所，¹⁰⁾富山県衛生研究所，¹¹⁾福井県衛生環境研究センター，¹²⁾名古屋市衛生研究所，¹³⁾(地独)大阪健康安全基盤研究所，¹⁴⁾堺市衛生研究所，¹⁵⁾兵庫県立健康科学研究所，¹⁶⁾奈良県保健研究センター，¹⁷⁾鳥根県保健環境科学研究所，¹⁸⁾岡山県環境保健センター，¹⁹⁾広島市衛生研究所，²⁰⁾香川県環境保健研究センター，²¹⁾北九州市保健環境研究所